

カテイラン

縫ひ狂ひのせぬ裾くけ秘訣

單衣物の裾くけはよく縫ひるものですが、細かく、凡そ三分位の針足でくけておくと比較的丈夫です。そしてたくみきり脇背などの縫目縫目では表へ針をそくに通し、小さく針目を一つ出してまた裾くけの峯の際に

その針を出し、つまり裏表に一つづつ針目を出してくけると、裾くけがきつかりと定まつて、縫ひ込が嵩張つたりぶく／＼したりする心配がありません。針も毎日使つて居れば錆びませんが、たま／＼使つて放つておくと赤く錆びます錆びるのは手の汗等がつく

ためですから、使つたらすぐワセリンか樟油の様なもの塗つて紙でよく拭きとつてから粉白粉か糠の煎つた物の中へ入れてたくど決して錆びません。また毎日使ふ針も、針さしの芯を綿などにせず糠またはすすき毛を入れておくと、いつもハリがさらさらとして使ふことが出来ます

一冊の代金で御希望通りな五冊の雑誌が自由に讀める

平町長橋町三五
川崎巡文庫
(申込次第規則書進呈)

常磐文藝

光

蘭 輯生

硝子窓を通して
初春の光は
美しい心の様に
はつきりと
私の胸に流れて
体の中の全てを
溶かす様な
心よい感がある
なめらかな肌木や
びらうごの様な草の葉は
活き／＼とした
美しい光で色彩られてゐる

△土地建物

賣買并ニ是ニ關スル萬般ノ御相談ニ應ズ

△床板、床縁

落掛 澤山新荷着

◎大谷石本場一等

品寸法御望次第
磐城建物株式會社
平町五丁目
電話五一八番

東京ガスコークス

東京瓦斯ガスコークス
會社産出

大俵 一俵ニ付 貳圓七拾錢
中俵 同 壹圓八拾錢
小俵 同 壹圓六拾錢

佐藤鐵工所

コークス部
電話 三六二番

毛糸

經濟な御手編物は
新時代の要求なり
品質優等廉賣で誇るは
弊店毛糸部の特徴

今年流行色を集めたる
弊店へ是非御用命を
平町三丁目(電話三八番)

三井吳服店

毛糸部

株式賣買中値

左記の値段は今日の標準値に付御用の節は御問合願候
銘柄 拂込 時價

磐城銀行	五〇〇	五七〇
平銀行	五〇〇	六八〇
磐越銀行	一一五	一〇五
磐城實業	三〇〇	三〇〇
田村實業	一一五	一二五
四倉銀行	一一五	一二五
農工銀行	二〇〇	二六〇
同 新	一五〇	二〇〇
白七銀行	五〇〇	五三〇
同 新	一一五	一四五
七七銀新	一一五	九五
郡山電氣	五〇〇	三七五
同 新	二五〇	一七五
只見川電	一一五	一〇〇
植田水電	一一五	一四五
好間水電	一一五	一三五
磐城建物	一一五	一三五
磐城製菓	二〇〇	六五
平信託	五〇〇	四九〇
磐城物産	一一五	一三五
植田物産	三〇〇	二八〇
平製水	二〇〇	二二〇
好間軌道	五〇〇	三五〇
入山新	三二五	一九〇
小田炭礦	二五〇	七五
磐城炭礦	五〇〇	三八〇
同 新	二二五	一五〇
磐城セメ	五〇〇	九一〇
同 新	一七五	三七〇

丸登株式會社

平町田町電話三三三番
川添房二郎

定價 一部金貳錢 月極
ニ限リ一ヶ月卅錢

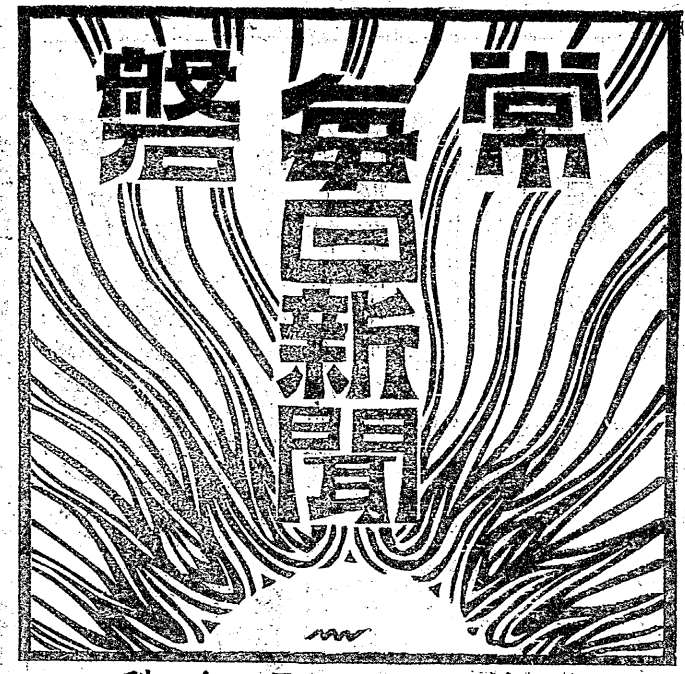
廣告料 五號十三字詰
一行五十錢

休刊日 日曜 大祭
祝日の翌日

印刷所 福島縣石城郡平町
田町十六番地
磐城新聞社印刷部

發行兼編輯人 川崎文治
印刷人

發行所 福島縣石城郡平町
字長橋町卅五番地
常磐毎日新聞社



一月十五日夕刊

寄書

大詔を讀みて (三)

磐中教諭 小澤 丘

吾人は軍國主義的謬見を保持するものではない、自國の歴史をのみ尊重し何でも彼でも自國の習慣を最上とする保守的頑迷者流でもない、徒に外來思想を良とする輕薄者流でもなく又外國の思想と云へば二も二もなき恐れ恰も腫物にさわるが如く考ふる恐怖論者でもない、自國の善であり美である所はどこ迄も尊重し維持し、惡とする所は捨て彼れの長所を取つて我物とするものである、吾人は何人の

制肘をも受けない善は善とし惡は惡とするものである由來我國は尙武の國である數千年の獨立は皇室を中心として保持されて來た幾多の先輩は生を棄て義を取り恥を知り名を惜みて國難に當つた。其の結果は戦へば必ず勝つた。以つて今日に至るに至つた然るに近年に至つて人心頓みに動搖を來たし青年は氣概に乏しくなり國家を双肩に背負つて立つべき重大なる責務を有する壯丁の内には應々にして徵兵を忌避するといふ様な心得違ひの者がある此に至つて吾人は日本の尙武の觀念に疑ひを入れざるを得ないのである。

一の尙武國だと言ふ事が出來よう、否々然らず日本には武士道がある大和魂がある之を發達せしめなければならぬ。今や日本は古今未曾有の大凶變に遇つて其の損害は東京横濱を始めとし關東地方其他全國的に亙つて幾億億なるを知らず之を一轉機として輕薄虛榮を捨て眞に自覺し反省しなければならぬ。物質の復興は第二である。精神の復興こそ第一としなければならぬ。長き邊に於ては特長に人心の動搖を懸慮あらせられ再度大詔を賜はられたのである。吾人は聖恩の深きに感泣し驟然自覺して皇國の發展を期せなければならぬ。(完)

再び帝都揺らぐ

群馬縣前橋市は

九月一日以上の大地しん
今朝午前五時卅分東京に再た復た激し
んあり被害しん源地等未だ不明なるも
群馬縣前橋市附近は九月一日以上の大
地しんなり(午前十時本社着電)

疑問の

震源地

に震源地は東京から西南十
四里を距るタンザワ(?)附
近である(午前十時廿分着
電)

電信電話不通
旅客列車脱線

(第二報) 今朝五時
四十分強震東京横濱を襲ひ
約三分間にわたり動搖激し
く人心恟々として戸外に免
れた人も多く警視廳では非
常處置を取りつゝあつたが
神田區内にて軒壁も数名の
怪人を出した外は今の處
被害不明である、又京濱電
車は一時不通となつたが午
前七時開通し戸塚、保土谷
間の旅客列車脱線したが死
傷者なく以西は電信電話不
通の爲め状況不明である因

列車の遅延

今朝の震災で
上野驛午前六時廿分發の下
り列車は平驛に午後十二時
五十五分到着となつて居る
が今朝の震災の爲め此稿を
締め切る午後二時十分に至
るも未だ列車は到着しない
又東京方面への電報は至急
電報を除く外は仙臺を迂回
する爲め非常に遅れると平
局長が語つて居た

和田倉門は倒れ

二重橋前は陥没

各ビルディング破損して
京濱地方は今尚ほ混亂状態
る(午前十一時着電)

第三報 今朝強震後の
京濱地方は今尚ほ混亂の状
態に在り損害程度詳細知る
を得ざるが目下判明した主
もなる被害は次の如くであ

和田倉門倒、二重
橋前陥没、各ビル
ディング外壁龜裂

平署拾得物

半年間の通貨
二百五十一圓

平警察署の昨年七月から十
二月迄の拾得物取扱件数は
三百十三件であるが此内通
貨は二百五十一圓五十一錢
である

元日早々

血塗れ沙汰

兇器は庖丁

石城郡内郷村大字宮字町田
警務長磯崎夫岩瀬郡福田村
生れ磯藤平次郎(四二)は去
る元日午後十時頃同村飲食
店高萩ハル方にて酷酒し庖
丁を振つて同人の手掌を斬
り治療二週間を要する傷を
負はせ平署にて取調べの上
本日警署を檢事局に送らる
十五の少年

五十圓拐帯

主家の金を

石城郡泉村大字本谷字幕の
内渡邊専藏方雇人和田廣
(二五)は主家の金五十圓を
拐帯し去る十三日午前九時
頃逃走したので植田分署は
犯人嚴探中

問題の三澤

隨道又落盤

女生の大負傷

石城郡窪田村を通ずる縣道
川部村三澤地内隨道は先の
那道時代より落盤負傷者續
出し其都度同村の問題とし
郵警局に陳述せる事等あり

消防青年會

三坂村の

石城郡山坂村消防組青年幹
部聯合會は十日午後一時か
ら同小學校に於て開き左の
事項を協議した

△一月二十日より二十五
日まで中三坂に於いて武
道會を開く事
△左記委員を定め式道に
關する指導及び平警察署
演武場改築寄附募集する
事(永山甚太郎、松本吉
大、大竹義隆、佐藤金福
全く此會は一面の眞實を斷つて居る、人生を發展せし
めんがために努力してゐる筈の人類が、よく徳育を作
ることを忘れたのでは全く本末顛倒である。教育の結
果廢人を製り上げる類である。繰り返して説く如く、
女性の身体は女性生殖細胞を安置する處である。子
宮は本腹で卵巣は奥の院、其の
他の所屬物は彈腺と云ふ所であ
らうか。此の生殖器官以外の凡
ての女性の外施位のものである
此女性の本尊は卵細胞で其本願
は精蟲との結合である。此の結
合を容易ならしめんがために外
施全體は出来る限りの趣向を凝
らす。女性は内面的に完成せら
れて行くと同時に外面的にも性を作り上げる。女性の
「アトラクチヴネツス」は即ち其である男性の感する女
性の好ましさが即ち其である。所謂女性美であり、鬼
も十八である事は此處の點なるを痛切に考へられる

眞性慾問題

鬼も十八
鬼も十八
鬼も十八

不平受付

三丁目の宣傳 柱三町目
青年團の火の用心及び左側
騎行を禁めた宣傳柱は最切
至極よい試みだと思ひまし
たが實際は本町通りが狭い
爲めに交通の妨害となる場
合多く先日も按摩が衝突し
たのを見ました、もう廢止
しては如何でせう
(不平青年)

常磐片々

再び帝都に強震
餘イッ迄荒れるか
しかし餘の荒れる事を前以
つて豫知する事の出来なかつ
つた天文臺を有して居る事
が甚だ心細い

大擴張

五丁目目拔へ
特設營業所を

郡山電氣株式會社平支店に
ては業務が益々擴張するに
連れ現在の營業處は場末に
失するので武田支店長は一
般需要家の便宜を圖り且つ
販賣の擴張を爲さんと五丁
目十七番地(元久保濱吳服

のは無駄の骨頂
こうなるに「再び地震があ
る」といつた豫言者アピル
の方が有難い

郡電平支店の
大擴張
五丁目目拔へ
特設營業所を

郡山電氣株式會社平支店に
ては業務が益々擴張するに
連れ現在の營業處は場末に
失するので武田支店長は一
般需要家の便宜を圖り且つ
販賣の擴張を爲さんと五丁
目十七番地(元久保濱吳服

常磐地方の

セメント戰

三會社鼎立し

磐城セメント會社の年産額
は實に五十六萬四千樽(價
格五百萬圓)の巨額に昇つ
て居るが震災以來は一層東
京方面の需用激増し全能方
を擧げて生産に従事し三日
からは現在製造能力の二倍
半とするの計畫だが一方淺
野セメント會社にても原料
の潤澤なる常磐地方に新工
場を設置せんと目下同地方
適當の地を調査中で近く淺

平町人

▲出生
一四軒町 長谷川忠藏五女
つねよ
一白銀町 中田淺次郎二男
篤

婚姻

▲婚姻
一藤岡縣 關伊勢松(二八)
紺屋町内(二二)
一藤山町 結瀬信三郎(三三)
七)南町小林かね(二九)
一二丁目 柏原正太郎(二二)
六)杉中小見義子(二二)